

## 2017 12 月定例会一般質問 Q&A 全貌

(川上議長) 続いて一般質問を許します。5番前住孝行議員。

(前住議員) はい。大変寒い日になりました。師走のお忙しい折りに傍聴をしてくださっている皆さん、また、インターネット中継で御視聴の皆さん、こんにちは、5番前住孝行です。12月3日に屋内運動場で「若桜はやっぱりミニ四駆でn i g h t 3」と称してイベントが開催されました。ミニ四駆という私たちの世代が子どものころ流行ったものなんですけど、モーターで動く車で決められたコースのタイムを競うというもののメインイベントと、その他にも食べ物の出店や遊べるコーナー、女性向けのブースなどみんなが楽しめる企画でした。寒い時期にもかかわらずたくさんの人でにぎわっておいりました。私もスポーツ吹矢体験ということで参加させていただきましたが、若者の発想力、協調性、行動力のすばらしさに感心させられました。

また、同日に郡家ドームのほうで行われました鳥取県障がい者フライングディスク協会主催だと思うんですけど、フライングディスク大会というのがあったそうで、若桜出身の選手が優勝したというふうに教えてくださいました。また、3位の選手が男女それぞれありまして、その話を聞いてもびっくりしたところです。その優勝や3位の選手の方に、じゃ、町長に報告に行かんといけんというふうに言うと、とても嬉しそうにしていたところです。こうして町民が活躍できるまちづくりが進んできていることに対して嬉しく思った次第です。それでは通告しております3点について順に質問させていただきます。

## 2020年キャンプ地誘致について

まず、「2020年キャンプ地誘致について」ということです。平成29年6月の一般質問でボルダリングの導入について一般質問をさせていただきました。議会だよりを見られた方から、「前住さん、ボルダリングやろうで。」というふうに声をかけていただきました。また、その方が想定していなかった世代の方からでしたのでびっくりしたところです。町民の体力向上はもちろん、スポーツツーリズムとしての役割を果たすと思っております。その後の関係団体との協議の状況や町民からの反応等ありましたらお聞かせください。

(川上議長) 答弁を求めます。新川教育長。

(新川教育長) 前住議員から本年6月議会におきまして、町民体育館の利用促進について御質問があり、少しお金をかけても利用しやすいことを考えてはどうか。

トレーニング器具やボルダリングの施設を設置してはどうかと御提案をいただきました。この中でボルダリングにつきましては2020年の東京オリンピックの競技種目に決定し、年々、競技人口も増加してきており、県内でも設置場所がふえつつあり、第2町民体育館は第1町民体育館に比べ利用者は少なく、面積は狭いものの、ボルダリングのような壁面を活用したものであれば、ふだんの利用や災害時の使用等にもあまり支障がないと考えられる。今後、町民体育館などの体育施設の活用については町民のニーズを踏まえ、体育協会や若桜クラブなどの関係団体と協議しながら検討を行い、より多くの皆様の利用につながるような取り組みを進めてまいりたいとお答えをしたところでございます。

また、その際、導入を検討することについては、ソフト面の整備、とりわけ指導者の確保や体験プログラム、また、安全性の確保などが重要になってくると課題も上げさせていただきました。さて、議員お尋ねのその後の関係団体との協議の状況や反応についてであります。現在のところ関係団体との導入に向けた具体的な協議は行っておりません。ただ、若桜町健康体力づくり推進協議会の体力づくり部会において、ウォーキングのモデルコースの設定について協議を進めております。この会の中でもボルダリング施設を導入してはどうかという意見が上がっているところであります。また、町民福祉課がグループリーダーとなっている役場職員による若桜活性化プロジェクトの健康づくりのワーキンググループでは健康づくり、体力づくり推進について意見を出し合い、町の施策として提案するために話し合いを行っておりますが、ここでもボルダリングの導入が話題になっており、設置施設の視察も検討されているところであります。しかしながら、施設を整備すればある程度の利用者はあるかもしれませんが、指導者の確保や安全な利用方法、管理費用の問題等課題もございます。6月議会でも答弁しておりますが、以前、第2町民体育館に設置していたトレーニング器具も結果的には撤去することになった例もございます。したがって、このようなことも踏まえながら引き続きボルダリングを含めた地域スポーツのあり方や町民の健康づくりをどのように進めていくのか、今後体育協会や若桜クラブなどの関係団体と議論を進めてまいりたいというふうに思っております。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。健康体力づくり協議会の体力づくり部会というのも、私も出させていただいて、僕が、私自身が発言したというのもあったりするんですけど、また、若桜の活性化プロジェクトグループのほうでもそういった話が出ているということで、話はあるのかなというふうに思います。それで、

本当は体力づくり部会のところではウォーキングコースの話をされ、重点的に話をされたんですけど、なかなかほかの委員というか、部員か、部会員の方からほかの声が出てないなというふうに思ってちょっと口火を切らしていただいたんですけど、その中でもやっぱり1人の方が「姫路でこの間、ちょっと行ってきたんだけど、あれはやっぱりいい。」というふうな意見も聞かせていただきましたし、その想定していなかった世代っていうのが結構、若い世代からの声は想定はしていたんですけど、結構年配の方からの声も聞いておまして、そのことをちょっとその部会の中でも話させていただいたら、「昔、若かった人たちはやっぱり岩場を登って、何か茸を取りに行ったりというような世代の人がおられるんで、そういった岩場を何か登ったりするのは抵抗がないんじゃないかな。」というようなことも言っておられました。

それで、そういった方々がちょっと昔を思い出してちょっとチャレンジされるということもあるかもしれません。先ほど教育長のほうも課題となっていることということで、指導者の確保や管理等の話もあったりしました。湖山池の周辺にも民間でされているところもあったりもするんですけど、そういったちゃんと車庫みたいなところを自分でやられてというようなことでされているんですけど、せっかくこういった体育館があるので、ぜひともそういうのを利用してできたらなというふうに思ったりしております。それで、ちょっと調べて、財源ですというのをちょっと調べたんですけど、私自身もちょっと総合型スポーツクラブのほうのt o t o助成をずっと受けてきてやってきているんですけど、そのt o t o助成のほうの種類の中にもスポーツ競技施設等の整備事業というのがあったりします。それで、3分の2の助成なんですけど、2,000万円、上限ですけど2,000万円助成してもらえるような財源もあったりもしますので、ぜひとも前向きに考えていただけたらなというふうに思っております。

2番目に移ります。それで、2020年はオリンピックイヤーとなりますけど、東京であるということでは何か若桜町には関係ないではいけないと思っております。このボルダリングで鳥取県の若桜町をキャンプ地として選んでいただけるような整備をしていければ、若桜町も関係したというような可能性は出てくるのではないかなというふうに思っております。この都市部だけ盛り上がるのではなくて、若桜町にも東京オリンピックのレガシーが残るような取り組みをされてはと考えるますが、所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員のほうから2020年のキャンプ地誘致についてということでございまして、ボルダリングで若桜町をキャンプ地として選んでいただ

けるよう整備していれば可能性は出てくると考える、若桜町にも東京オリンピックのレガシーが残るような取り組みをされてはどうかという御質問でございますけども、2020年に開催される東京オリンピックに初めて正式種目となったスポーツクライミングは競技人口も増加し、今後、注目されるスポーツの1つになると思います。このスポーツクライミングは12メートルを超える高さの壁に設定されたコースを登り、制限時間内での到達速度を競うリード、高さ5メートル以下の壁に設定された複数のコースを制限時間内に幾つ登れたかを競うボルダリング、高さ15メートルの壁に設定されたルートを駆け登るタイムを競うスピードの3種目の複合種目として行われるようでございます。キャンプ地として誘致するためには、まず競技施設として国際競技連盟の技術要件にあった施設を整備しなければならず、最低でも1億円以上の費用が必要と考えております。さらにクライミングのコース設定ができる人材の確保を初め、環境整備としては、客室は洋室で寝具はベット、海外放送は無料視聴できるテレビとインターネットの環境、選手団の求めに応じた栄養バランスを考慮した食事やケータリングサービス、選手に対応できる言語スタッフ、外貨両替、筋肉トレーニングが取れるトレーニング施設、練習施設や宿泊施設から最寄りの医療機関まで30分以内で緊急搬送ができること、警備体制の充実など安心して練習ができ、選手のさまざまな要望に応えられる設備や人材が必要となります。鳥取県が陸上でジャマイカ選手団の事前キャンプ地に関する覚書を締結されたのは記憶に新しいところですが、境港公共アリーナがセーリング、県立鳥取産業体育館と県立米子産業体育館がバスケットボール、県立武道館が柔道、八頭高等学校ホッケー場がホッケー、倉吉自転車競技場がトラックレースのキャンプ候補地としてオリンピック競技大会組織委員会に登録されていますが、新たな施設を整備するのではなく既存の施設を活用したものとなっております、選手や生活においては利便性により地域となっております。

また、2018年の春には、倉吉でスポーツクライミングのアジア選手権が開催されるため、倉吉体育文化会館の既存のリード施設に加え、ボルダリング施設とスピード施設を整備されるよう伺っております。県中部は日本代表選手の輩出や指導者が日本代表のコーチを務めるなど、競技者、指導者が充実しており、地域の競技に対する基盤がしっかりしています。前住議員が言われようにオリンピックのキャンプ地になればそれなりのPR効果が十分に期待できると思いますが、費用対効果には疑問がありますし、オリンピック終了後の指導者と後継者の育成、適正な維持管理などの解決ができないと施設整備だけが先行して一過性のものに終わってしまうこと

により、負のレガシーになる恐れもございます。そのようなことからオリンピックキャンプ地としてのスポーツクライミングの整備は今のところ考えておりません。

しかしながら、これから将来、どういう考えが一番いいのかなということは、私たちもよく考えるわけなんでございますけども、町民がしっかり、あるいは県民が若桜町に来て練習できるというようなことであれば、若桜の第2体育館とか、あるいは氷太くんの体育館とか、いろんなことが想定をされるというぐあいに思っておるところでございますけども、やっぱり一番大事なことはしっかりとそれを指導できる、管理できる人をまず確保できるか、そういうようなところから検討をしてやっぱり実現を、これなら実現可能じゃないか、これなら中学生、高校生までぐらいできるんじゃないかと、そういうようなこともしっかりとみんなでやっぱり考えてみる必要があらへんかなということを思っておりまして、そういうところどこが一番いいかなというようなことのできる手法というのもこれから考えていくべきかなということを思っておるところでもございまして、もっともっとしっかりとこの問題については議論をしていかないといけんと、体育協会もありますし、みんながやっぱり議論をして、そういう中でどうでもやっぱりやらないといけんとということになれば、私はやっぱり町民体力づくりやそういうもんでもやってもいいなということも思っておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。希望もちょっと見える答弁いただきましたのであれなんですけども、私自身も、教育長も言われましたし、指導者の確保というのは大事ななと思ひましてちょっと調べ、僕もそれを調べました。それで、山岳協会が資格を出しておりまして、それで、金額的には15万円ぐらい安いやつっていうか、一番簡単なやつなんですけど、かかっていますし、もうちょっと何か先に進んだ指導者ってなると、またもうちょい10万プラスみたいな感じであったりしているんですけど、それに近い資格を持っている人がいるんです。それで、もう何項目か研修を受ければこの資格にも移れるっていうような人がおりまして、その人が一番近いかなということと、前住さん、おめえが取れいやっていうふうにも言われているんですけど、僕が取れば僕が取ったで、それでもいいんかもしれませんけど、何分、はい。身体が1個しかないもんでして、なかなか対応できないのが何か想定されるので、ちょっとあんまり僕はいけんのかなというふうに思ったりもします。

それと、ちょっとこれは言っていないかようわからんですけど、ちょっ

ともう実際にやられている方がちょっと若桜に来たいという人がいまして、その人にやってもらうのがいいんじゃないのかなというふうにも思ったりもしていて、そういう何か盛り上がりを実際に出して行って、ぜひとも、このボルダリングはほんと個人競技ですし、若桜の子どもたちにはとても合っているんじゃないのかなというふうなことがあって、これ、一生懸命推してはいるんです。あんまり背の高い子がいるっていう感じじゃなしに、ちょっと僕みたいにちっちゃい、ちょこちょこしたような子が多いような気がしていますので、何かそういった若桜の子に合っているのかなというふうに思って、推してもらっております。それで、確かにキャンプ地となりますと、いろんな条件があって、なかなか難しい部分もあるんかもしれませんが、それはトップアスリートを呼ぶような国、国のは倉吉とかそういった施設があるところに行きがちなんでしょうけど、ちょっとオリンピックに参加するために、参加することに意義があるみたいなぐらいの国がもしありましたら、そういったところでも、もし整備がちょっとあれば来ていただけるんじゃないかなというふうに思って、メインは倉吉、本当に素晴らしい施設見て来ましたけど、ありましたけど、そういったのはそっちに任して、ちょっと時間かけてそこにも練習に行けるし、若桜でも練習できるというような状況ができたならというふうに思って話させていただきました。

キャンプ地のレガシーということで、それで、氷ノ山の本当の雨のプログラム、響の森はあるんですけど、その1つにもなると本当に思っております。それで、ここでいい答弁もらえなかったら、もう質問せまいかなと思っているんですけど、これ以上遅くなるともう多分手遅れになるんだらうなというふうに思っております。キャンプ地誘致等について、ぜひとも若い者の意見といたしまして、前向きに進めていただけたらなというふうに思っております。

## 若桜宿の電柱埋設について

では、次に移ります。若桜宿の電柱埋設についてということです。以前の一般質問で若桜神社大祭の神輿を担がせてもらったときに、電線が障害になっていたということの経験や電柱を避けて事故に遭われた方があったというような事例、また、伝統的建造物群指定の制度に関連して電柱埋設をしてはという提案をさせていただきました。その答弁は県道なのでなかなかというようなことが表に出ての残念な内容だったと記憶しています。しかし、このたびの9月の県議会ではほぼ同様の内容で福田県議が知事に質

問をされました。知事答弁では特別行動計画というものをつくって若桜町が条例をつくってくだされば協力できるというようなことの趣旨の答弁だったと思います。そのことを踏まえて町長の改めての所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員のほうから、以前に電線埋設の一般質問をさせていただいたが、ほぼ同様の内容で9月県議会において福田県議が質問されたのに対して、知事が特別行動計画をつくって条例を制定してもらえばとの答弁をされたことを踏まえ、町長の改めての所見を伺うということでございますけども、福田県議の質問は若桜の古い町並み重要伝統的建造物群に指定される見込みのカリヤ通りについて、町と連携しながら電線地中化や町屋再生などを進め、商品化し、観光列車とのセットで大きく売り出すべきのものでございました。それに対して知事答弁は特別行動計画などをつくり、景観条例を制定してもらうのが本来一番いいことと思うし、それに加えて電線地中化とか、修景事業等にも県として協力できるかもしれないという主旨でした。景観の保全に関しては建物の保存を主目的とした伝建保存条例を制定することである。それで、ある程度の規制はかけられるものと考えていますが、これだけでは景観保全のための工作物や屋外広告物等には規制がかけられないため、景観条例との併用を行ってはどうかとの知事からのメッセージと理解をしているところでもございます。

御存じのとおり、今、宿内では現在進めている重要伝統的建造物群の指定に向けた取り組みが重要な取り組みになりますが、町としてはその重要伝建地区の指定作業に全力投球して県内で3番目となる国の重要伝統地区選定も目指し、その後に当該選定を契機とした町民の景観意識の向上を図り、将来的に景観条例による景観行政団体への移行を図っていきたくと考えておる次第でもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。伝統的建造物群の指定を最優先でというような答弁だったと思いますが、やっぱりほんとあわせて考えて、考えておられるとは思いますが、あわせてやっていかないといけんじゃないかなということはこれまでも言わせていただいております。それで、一遍に広いエリア、そのカリヤ通りをされるっていうことになると、本当に大変な工事費等のその同意とかも得られるのは大変だと思うんですけど、ちょっとそのエリアを狭めて電柱のこの間ごとの何か小さい括りで、それで、住民負担も発生してくるんです。その金額のほうも明らかにしての町民、その電柱周辺の、住民の同意が得られたところからやるとかっていうような、ちょっと住民からの働きかけも促しながら取り組んで、ちょっとずつでも取り組んでい

けばちょっと見えてくるんじゃないかなというふうに思うんですけど、そのことについて町長どうでしょうか。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。1つは伝統建造物群の指定になったから、電柱が移転できるという考え方ではないわけございまして、伝統建造物群につきましては今の家屋をどのように守っていくかということで、それに対して承諾したところについては、家屋はいわゆる国、県、町が出したりして80%近くは屋根を直したり玄関とかそういうものについて、外観についてはできるということございまして、またそれとは別に、道路についてはそういう景観条例をしながら道路をしていくということになってくるわけですから、それを一緒にしてできるというのはなかなか難しいことなんでございしますが、私たちはすぐにそれをせえと言ったって、なかなか難しいんです。伝統建造物群たけえって指定をして、ちゃんと承諾しても自分のお家が、いや、いいですよって自分のうちがするって言われると、じゃ、補助制度は用意しておりますよと、しかしこういう規制がかかってきますということでございまして、この若桜の町並みを保存していこうというのが大きな考え方でございまして、またもう1つは、町並みの改修につきましてもまた別の制度が出てくるわけございまして、県道は県でしっかりと応援をするしというようなこと、町道は町が関係する、あるいはその中にある中電の電柱もあるし、いろんなことが関係するわけございまして、ここで今、来年からするとか、そういうようなことは言えないんですけども、今、町内ではそういうようなことをみんなで議論をさせていただいております。

それから、もう1つ心配なのは若桜にも結構表通りに留守の家があるというようなこともあったりして、こういうのも1つの障害にもなりませんかなということもあったりするところでもございまして、しっかりとそういうところを今、うちの職員いろんな部門に分かれて、こういうことを今若い皆さんの研究会が発足してやっているわけございまして、そういうところからまたいろいろといい案も出てくることを思っておりますけども、決して、目標はやっぱ電柱をこれも地中化していこうという目標はしっかり持って、今、研究に当たっておるところでもございまして。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。僕もちょっと各課長が検討されておるとことは聞いておりまして、何とか後押しできたらなというふうに思ったりもしております。ちょっとしつこくもう1個いきます。それで、先ほど電柱管の住民の同意ということで2本、2本の近くの住民の同意を得られてこの2本を埋設するんだったら、何軒あってどれぐらい金額がかかりますよ、みたいなある程

度の何か試算みたいなんをしていただけたら、町民もわかりやすくなってくるんじゃないかなというふうに思ったりもするんですけど、そのことについて町長どうですか。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) まだそこまでの試算はできないというぐあいには思っております。また、本当のほんのかかりの段階でございまして、そういうものが先走りしてどんどん歩きかけたら大変なことになりますからしっかりとまだそういうものを提示する段階の段階もできないわけではございまして、本当にこの事業がしっかりと取り入れできるかっていうところの、今お話をしておるところなんでございまして、ちょっとそれはまだしてないですからこらえていただきたいと思っております。

(前住議員) はい。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。僕はそういう試算を出してそれは一人歩きしたほうがいいのかというふうに思って、そういつて言わせてもらっておるんですけど、そこは町長との意見が違っておるのかなというふうに思っております。こうやって思いは違っていても上手に事業が進んでいけば私自身はいいので、どういう形にしる、何とかこういった電線ですね、電線埋設の事業が進んでほしいなというふうに思っております。福田県議からも頑張れというふうに言われておりますので、一応僕の最善は尽くしたかなというふうに思っております。

## 高校生、大学生の活躍の場について

はい。では3番目の高校生、大学生の活躍の場についてということで質問させていただきます。若桜町には高等学校、大学がありません。ですので、どうしても高校生の活躍の場というのが町外中心になってしまっています。先日平成29年度鳥取県PTA研究大会が米子市文化ホールでありました。とっとり電子メディアとの付き合い方フォーラムっていうのも合同開催で行われたところですけど、メディアとの付き合い方というのが中心のテーマでされております。その中で若桜町と同様、高校がない南部町の高校生サークルの取り組みがありました。高校生が中心となって中学生にスマホの使い方のレクチャーをしたり、地方創生の若者意見を出したりというような、さまざまな活動をされているようです。それで、地域の課題解決に取り組んでおられておりました。若桜町でもこういった取り組みができないのかどうかというところで教育長のほうにお尋ねいたします。

(川上議長) 答弁を求めます。新川教育長。

(新川教育長) はい。前任議員から南部町の取り組みについて御紹介がありました。南部町も本町と同様に町内に高校がなく町外に進学してしまうため、中学卒業までに培った同級生同士のつながりや地域との関わりが薄くなり、高校生の孤立化や高校卒業後の都市部への流出傾向があります。南部町ではこの傾向を危惧し、町内の高校生が集い学習する機会を設け、継続して地域と関わる場面を仕掛ける必要があると考え、3年前に南部町高校生サークル「With you翼」を立ち上げられました。口コミやチラシ配布などで募集し、現在38名の加入があり地域行事の参加や海外研修、町内中学生へのメディア研修など年間30回を超える活動を行っておられるということで、高校生が町のさまざまなことを知り、感心を持つことのできる非常にすばらしい取り組みであると思います。

一方、本町におきましては以前から中高生ボランティアサークルを立ち上げ、行政が行う事業を中心にボランティア活動等に取り組んでおりましたが、高校生のクラブ活動などによる多忙さや生徒数の減少もあり、中学校でのPRや高校生に向けて若桜駅でのチラシ配布などで呼びかけをしても申込者がいないという状況が続き、近年では活動をいたしていません。しかしながら本町としても、高校生が地域の中においてもいきいきと活動できる場面は必要だと感じております。ただ、高校生になってからいきなり地域活動に参加しようとするためには小さい頃から保護者と一緒にさまざまな地域の活動、行事に参加してきたという実体験も大きな影響を与えるものというふうに思います。そのため、教育委員会として本年度若桜学園のPTA総会で各集落の祭りや行事などに積極的に参加することにより、活動を通じた地域への愛着や誇りが持つことができるよう、子供たちにさまざま体験の場を提供していただくようお願いをしております。また、頼まれたからやるなど、単にイベントなどのお手伝いで終わらせるのではなく、ボランティア活動を初め、自分自身の活動が地域にどう役立つのか、自分の役割は何かなど将来に向けての夢や目標につながるよう若桜学園と一緒に活動する機会の提供ができないかと話し合っています。受身の姿勢ではなく自分たちがやってみようと思える活動を自主的に考えられる子ども自身の素地づくりを進めてまいりたいと思っております。

最も高校生が地域の課題解決につながる取り組みを行うためには地域と高校生がお互いに目標を共有し、地域の宝である子どもは地域で育てるといった思いを地域全体で認識し、子どもたちの成長を見守り支えていくことは大切なことだというふうに考えます。新たな活動を始める前に、まずは今、若桜町で行っている事業や地域活動の中で高校生同士がつながること

ができる機会や拠点となる居場所づくりなどがなくないか検討していきたいというふうに思っております。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。12月7日に教育を語る会に参加させていただきまして、参加させていただいたんだか、開催したんかわからないですけど、「若桜学園の卒業後も若桜への思いを持続させるためのそういう仕組みづくり」っていうことで、町長、教育長、学校とPTAとで意見交換をさせていただきました。その中でも先ほど教育長言われたような拠点ということ、拠点づくりということもありましたし、地域とやっぱりどれだけ関われるかっていうような、先ほどの集落で祭り等の活動に参加してほしいというようなことの声かけ。それで、また関わらせる人がいるなというようなことや、きっかけですね、きっかけづくりのところが辺などのそういったキーワードが幾つか出たなというふうに思いました。それで、民間でも、民間や保護者でも考えられることもあるんですけど、南部町では社会教育担当の方、名前は挙げていいかわからんですけども、大下さんっていう方がその発表の、PTAの研究大会の発表でも参加されておりましたし、結構社会教育の担当の方が中心となってやられていたように思います。そういった関わらせる人づくりというか、そういったことについて社会教育の担当の方がそうなれたらなというふうにも思ったりもするんですけど、教育長にそのことについてお尋ねしたいと思います。

(川上議長) 答弁を求めます。新川教育長。

(新川教育長) まずは保護者それから学校、教育委員会、それから当事者である本人、みんながどういった目標を持って同じ思いで地域のためになること、あるいは自分の夢や希望につながることを、こういった取り組みができないか、コーディネーターといいますか、そういう方を媒介として具体的な取り組みができたらいいなというふうに思いますので、今後とも御協力をいただければというふうに思います。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。おめえがすりゃあええがなっていう声がどうしてもね、出てきてしまうんですけど、やっぱり僕が関わるとやらしいですね。なので、僕じゃない人で何とか適役の人がおられればなというふうに思ったりもします。

はい、では2番目のほうに移りたいと思います。大学生については公立鳥取環境大学の学生がさまざまな場面で活躍され始めております。氷ノ山樹氷太鼓もそうですし、さまざまな祭り、イベント等のスタッフ、また学習支援の補助なども関わっていただいておりますが、今後さらに、さらにそういった大学生の活用っていうか、活躍の場の展開が想定できないのか、

町長にお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前任議員のほうから、公立の鳥取環境大学とのさらなる展開についての町長の所見はということでございますけども、現在、本町と環境大学の関わりですが、民間での関わりとして氷ノ山樹氷太鼓のメンバーに多数の学生が参加しておられます。この太鼓メンバーを中心としてさくら祭りや鬼っこまつりなど、町内イベントへのボランティアスタッフとして参加をさせていただいておりますし、観光協会が行うPR活動スタッフや教育委員会が行う学習支援教師スタッフとしても環境大学生に活躍させていただいております。行政関係では、ふるさと創生課が環境大学の副学長の遠藤教授担当ゼミと連携して、地域住民の協力を得ながら4年目となる空き家活用調査を実施しております。若桜学園では英語学習の一環として英語村への訪問学習も行っておりますし、教育委員会が出張英語村を受け入れた実績もあります。また29工房でも環境大学生アルバイトや体験実習を受け入れています。そのほか大学授業の一環として氷ノ山の地質や生物も研究対象としていただいておりますし、フィールドワークの舞台ともなっています。環境大学とは行政、商工、農林業団体等が参加するととり麒麟地域活性プラットフォーム地域連携推進会議が設置されておりますし、意見交換の場が設けられています。環境大学の分析では就職を機にそのまま県内に残る学生の特徴として、授業やサークル活動、私生活を通じて在学4年間で地域と深いかかわりを築いている者が多いとのこと。実際に、昨年環境大学から2名の卒業生が本町の地域おこし協力隊として着任されましたが、両名とも大学在学時から氷ノ山樹氷太鼓の会で活動されてきました。

また、その活動を通じて町内に人脈もでき、町内イベント、ボランティア自然活動体験など、広く深く若桜町にかかわりを持っていただいております。大学との連携においては、大学の有する知的財産、人的財産を地域へ還元していただくことでの地域活性化と、結果としての地域のかかわりを深め、地域に残ることで地域活性化が相乗効果として表れてくることが理想と考えております。一番近い地元大学でもありますし、それなりのかかわりを築かせていただいていると認識しておりますし、今後とも地元大学との連携を密にして、大学のフィールドワークの場として受け入れは積極的に協力すべきと考えているところでもございます。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。似たような何か質問を前にさせていただいていたかもしれません。それでこの質問をさせていただいた理由としましては、ちょっとこれ高校

生になるかもしれませんが、日野町のほうではJK課、女子高生課じゃなくて地元改革課っていうのがあるそうで、その高校生、それは高校生なんですけど、が中心となって、先ほどの高校生サークルみたいな感じなんかかもしれませんけど、高齢者の見守り支援員をされていたり、自分たちで考えた、何かことを自主的にされているところもあります。それで、この間テレビもやっております、何かそれは桜餅だか売ったって言うようなかな。何かそういったこともされておまして、先ほどは教育長に尋ねたんですけど、町長部局としてもこういった、何かことができないのかなっていうことで町長のほうに質問させてもらっているんですけど、そのことを踏まえて町長にもし所見がありましたらお願いします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。全国でも町づくりには大勢の大学生が一役買っているっていうのは事実だというぐあいに思っております、現在若桜町でも氷ノ山のほうでは、土曜日、日曜日には大学生に来てもらって、子どもさんを扱っていただくということもずっと続けてきておるところでもございますし、来年、建築します管理棟の中には、仮称でございますけども冬の幼稚園とかというようなことで、そこで2階からお父さん、お母さんが滑っているのを子どもたちが見えると。それで、そこに大学生が参画をして子どもたちを見ていただく。そういうようなことも今計画しておるところでもございますし、それからまた、若桜祭りでございますけども、皆さんほんとに神輿の担ぎ手がなくて困っておられるというようなことがございまして、全国でも大学生がほんとに神輿を担ぐのに、いろいろなことに、祭りに参加しておられるということもございますので、そういう中でやっぱり大学生ともしっかり交流を持っていくべきではないだろうか。特にこうして若い人が少ないわけでございます、大学生に来ていただいと、そういうようなことをこれからもしっかりとみんなが議論をしていく必要があるんじゃないかということをおもっておりますし、先ほど言いましたように、地域おこし協力隊で若桜に勤めたい、若桜におりたいという方が2人も来ていただいております、頑張ってくださいとおるところでもございますから、そういうものがどんどん広がりいけば地域の活力が出てくしゃへんかなということも思っております。今後そういうことをしっかりと教育委員会や町長部局でも合わせて検討しながら大学生が一番来やすい町、若桜町をつくっていく必要があるということをおもっております。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。ほんとにこの間、さっき冒頭で話させていただいた若者のイベン

ト等にも、そういったところともうまく絡めて、せっかく若桜のそれぞれの事業等に絡んでくれている学生たちが、何かそういったところにも絡んでくれば、またよりいいものになってきて、ひょっとしたら出会いもあるかもしれませんし、そういったことも踏まえて、これからも継続してさらなる展開も期待したいなというふうに思っております。

では質問はこれで終わりますが、2期目のこの最後の質問になっております。4年間を振り返ってみますと、13回質問して42項目、きょうを合わせたら45項目の質問をさせていただきました。その中で作業所の拡張提案や地域おこし協力隊の増員、遊休施設の再利用など10項目は事業化されたのかなというふうに思っております。また、野球の打率で例えますと2割3分8厘ということで、まだまだ前期と同じレギュラーになれん、なりきれてないというような成績かなというふうに思っております。形が違えど、事業化された事業っていうのも9項目あって、甘く評価すると19項目は実現できたかなというふうに思います。そういうふうに考えると45%は採用していただいておりますかなというふうに思っております。

それで1期目に提案したことも形になってきているというものもありまして、1、2期合わせての生涯打率は80提案中23採用、2割8分7厘ということで、そう考えたらちょっとレギュラーにもらえるかなというふうに思ったりもしています。それで、そういった計画や見通しが見られるものを含めますと、51.3%と半分以上考慮に入れてもらって考えてもらっているなというふうに思いました。この次も議席をいただけるなら、よりしっかりとした政策提案ができるように努力していきたいなというふうに考えております。小林町長への質問は最後となりましたが、2月の任期までは健康に留意していただきながら、最善を尽くしていただいて、任期終えたら一町民として、また行政とは違った立場で町づくりを応援していただけたらというふうに思っております。本当に12年間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

以上で終わります。